



世界の ミカタタイムズ



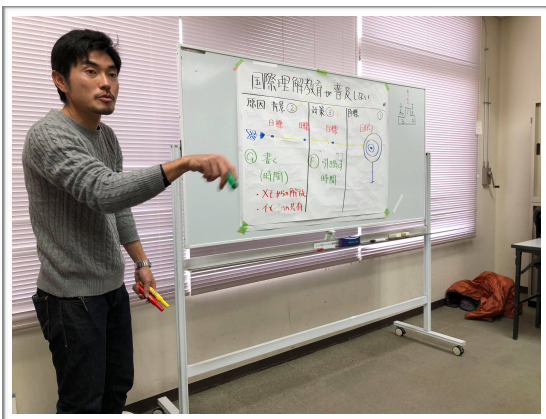
発行：学校から世界のミカタを考える会

綾小路きみまる氏の「あれから40年！」はもしかするとESD的かもしれない。

第2回モヤモヤワークショップを行いました。

モヤモヤワークショップとは、「研修に参加したけどなんか腑に落ちない」「ワークショップを実施してみたけど、なぜか思ったようにいかなかった」「ファシリテーターとして実績を積みたいけれど、本番をいきなりするには自信がない」などのありがちなモヤモヤを解消するための企画です。モヤモヤを感じた人がワークショップを実施し、事後にその参加者とともに話し合うことでスッキリするという仕組みです。

今回は「ファシリテーショングラフィック」(以下、ファシグラ)が題材で中間南中学校の高倉先生を研修のファシリテーターとして実施しました。授業やワークショップの際にツールとしてはファシグラを駆使しているけども、今回のように研修形式で技術そのものを人に教える機会は初めてという点で「モヤモヤ」でした。



「ファシリテーショングラフィック」とは、簡単に言えば、議論の内容を可視化することで話し合いを円滑にするスキルです。模造紙とペンを用いて、議論の参加者の発言を「見える化」することで、議論の手助けをします。

実際に参加してみると、ただ模造紙とペンを用いる「だけ」で参加者の話し合いが驚くほど活性化していきます。また、的確なタイミングでコツを示してくれるおかげで時間を追うごと

に、参加者のスキルが向上していくのが目に見えてわかりました。初めてとは思えない実りのあるワークショップでした。

今回の最大の反省は、高倉先生の実施した研修の完成度が高く参加者の中にほとんど「モヤモヤ」が残らなかったことでした。あなたも実施者としてやってみませんか？

ファシリテーションって何？(その9)
協調的な解決とは？

協調的な解決の具体例として、あまりにも有名な話なのでご存知の人も多いかもしれません。

姉と弟が一つのオレンジを取り合っています。二人は一向に譲り合う様子が見えません。

二人の声が聞こえてきます・・・

「ママレードが作りたいの！！オレンジは私のよ！」

「ヤダヤダ！ぼくが食べるって決めたんだから！！」

あれれー？おかしいよー。いがみ合う必要くない？

姉はママレードのためにオレンジの皮を欲しがっていて、弟は食べるためにその果実を欲しがっていたのです。

「オレンジが欲しい」だけでは見えてこなかった、背景や奥に隠れた情報を引き出すのがファシリテーターの仕事です。そして、出てきた情報を並べてどこにどちらもが納得でき、敗者がいない解決点がどこにあるのかを探るのです。

上のオレンジの話は笑い話のようですが、実際に世の中にたくさんありますよね。あなたの周りにもきっとあります。

さて、一年間に渡って連載してきたファシリテーションについてのコラムは今回でおしまいにします。もちろん、全ての技法についてここで書いてきたわけはありませんし、それぞれの技法や考え方についてもその触りだけになってしまっているのも事実です。しかし、このコラムを通じて少しでもファシリテーションとは何か、どのようなステップでファシリテーターが問題解決をしているのか、そして何よりも国際理解教育という答えのない学習の場においてファシリテーターが必要であることが少しでも伝わったとしたら幸いです。

書き初めはアラビア語まで



今日の写真

ここはどこでしょう？



これだけの水が流れて枯れないのが不思議ですね。

拡大した画像はホームページにあります。バックナンバーと合わせてどうぞ。「世界のミカタを考える会」で検索！

先日娘の七五三祝いをしました。着付けにスタジオでの写真撮影、そして神社へお参りと話には聞いていましたが大変なんですね。しかし、嬉しそうな顔で孫の晴れ姿を見る祖父を見てるとやってよかったなと思えました。ところで、海外にも「七五三」があるのをご存知ですか？ポーランドでは「コムニア」というお祝いがあります。もちろんお祝いのタイミングも意味合いも違いますが、衣装を着て、親族で食事をして...という流れはまさに日本の七五三です。そして何よりも二つの共通点は「子どもの成長を祝う行事」であるということ。(あとは結構なまとまったお金が飛んでいくということ...) 子どもの健やかな成長への想いは世代を超え、国境を越えるようですね。元気に育ってね！

ちなつママの
グローバル子育て日記

